

岩手県公立学校退職校長会

# 盛岡会だより

第229号



■発行年月日：令和8年3月31日(火)  
■発行：岩手県公立学校退職校長会盛岡地区会  
■事務局：☎020-0108 盛岡市東黒石野  
■印刷所：(有)セーコー印刷 盛岡市下ノ橋町2-23

代表 吉川 健次

TEL 019 (651) 3606

## 歴史遺産「志波城」

第23班 樋下 照男

午年生まれの私は、今年6回目の干支を迎えた。5回目の時は、長年勤めた教職の退職の年だった。あれから12年、学校を去ってから県PTA連合会事務局、そして本宮の児童・老人活動センターに勤務した。古希を境に外に出るの仕事から退こうとしていたが、志波城の管理団体から手伝ってほしいと依頼があった。志波城は、私の住む地域にある歴史公園でもあり、週に2、3日の勤務でいいという条件で承諾した。そして現在2年目、歴史公園の管理業務や企画事業など地域の方々の協力を得ながら従事している。このような折、盛岡地区会より会報原稿の依頼があった。承諾はしたものの、いざ原稿を目的にして何を題材に原稿を書いたらいいのか悩んだ末、地元史跡であり、今勤務している志波城についてその一端を宣伝を兼ねて紹介することにした。

昨年、宮城県の多賀城創建千三百年祭があり、それを記念して様々な事業が行われた。当志波城でも東北の他の城柵施設と共に御城印を発行するなど記念事業に協力した。ご存じのとおり、多賀城も志波城も古代日本の重要な建造物である。多賀城は724年に、志波城は803年に造営された。これら陸奥国の城柵は、当時の天皇を中心とした律令制度を広めるために置かれた国の役所で鎮守府の役割も兼ねていた。そして、この志波城が今



の場所にあることが判明したのは、つい最近のことです。東北自動車道の建設に伴う遺跡調査の結果からであった。従って、志波城古代公園として開園したのも30年ほど前のことである。

志波城より後にできた徳丹城は、志波城より前に発見されていたが、志波城が特定できなかったのはなぜか。また、この志波城は10年でその機能を徳丹城に移したのにはなぜか、など様々な史実や疑問を案内所にある資料や遺物等で解明できるし、学芸員や解説案内員から話を聞くこともできる。

また、古代東北は、陸奥国や出羽国であり、そこに住む人々が蝦夷と呼ばれた人々で、中央集権国家づくりに反抗した。桓武天皇の重点政策は、平安京を作り、蝦夷を平定することであった。この志波城を築城したのが、征夷大將軍となった坂上田村麻呂で、城柵内には、多くの兵士を居住させ、築地塀や櫓門などを作り、この地に住む蝦夷を政庁に招待するなどしながら蝦夷を平定した。この志波城は、多賀城や胆沢城をも凌ぐ北東北最大の城柵であり、現在の公園には、その政庁跡や築地塀、竪穴建物等が復元されている。現在の敷地内には、民家や田畑があり、住民の生活が営まれているため、遺跡調査で発掘されていない遺物は、まだ地下に眠ったままの所もある。

現在、志波城は国指定の史跡となり、多くの観光客が訪れている。また、昨年は、現在放送中の大河ドラマ「豊臣兄弟」のロケ地となり脚光を浴びている。盛岡市に住みながら、古代の歴史ロマンに浸ってみてはどうだろうか。私も微力ながらこの志波城の魅力を伝えていきたい。

# 令和7年度 第2回班長会

■日時 令和8年3月7日(土) 15時30分～16時45分  
 ■会場 岩手県公会堂「21号室」  
 参加者 48名



佐藤典子議長

はじめに本年度ご逝去された11名の盛岡地区会員に対し参加者全員で黙祷を捧げた。

1 開会のことば 菅原 壽 副会長

2 会長挨拶 吉川健次 会長

今年度は、結成60周年記念大会第51回県研修・親睦会「盛岡大会」を盛岡地区会主管により開催し、たくさんの参加者の方々から好評をいただきました。班長さん方をはじめ地区会の皆様には、様々な役割を担っていただき、ご協力に心から感謝申し上げます。

春には会費の他に絵本の集金も有難うございました。絵本は小学校に寄贈し、退職校長会と現職との結び付きに役立ちました。

来年度は、会費を値上げせずに事業の見直しをしてお返ししていこうと考えております。まずは会報を年4回発行から3回発行に減らしたいと思えます。さらに絵本のための集金をせうに会費で賄えるようにいたします。

今回、班長さん方が14名代わります。これまで班長として大切な役割を果たしていただき有難うございました。

### 3 司会者選出

司会者に第23班班長・佐藤典子氏が選出され、会を進行した。



4 会務報告(平政光事務局長)  
 今年度の会務並び各事業の実施状況報告

### 5 協議

協議1『令和7年度事業の実施状況について』

協議2『令和7年度事業(熊谷幸一総務部長)』

結成60周年記念事業へ地区会挙げて「おもてなし」の心で取り組み大きな成果を挙げた。平和教育推進の絵本プロジェクトも各学校で好評であった。役職定年退職者の加入促進に向けても一定の成果を挙げることができた。

協議3『令和8年度の会員名簿の作成と会費等の納入について』(同)

日本教育会盛岡地区会との合同研修会は、市内の学校が抱える課題解決に携わっている弁護士との講演で、例年より参加者が多く充実した会となった。会報は原稿執筆者のご協力により、年4回発行することができた。

協議4『令和8年度定期総会・盛岡地区会定期総会・第1回班長会について』(同)

厚生部の事業は計画通り実施でき、会員相互の親睦と交流の推進という目的を概ね達成できた。「この指とまれ」事業は、宮古市新里生涯学習センターを訪れた。宮古街道を開削した牧庵鞭牛和尚の足跡を辿る研修の旅(ドライブ)や会食を通して親睦を深めた。

協議5『令和8年度定期総会代議員の選出について』(同)

新入会員17名を迎え会員数448名であった。会費納入は438名分で、納入については、班長さんのご尽力に感謝である。各事業において適正な予算執行ができています。時節柄、支出については細心の注意を払っているが更なる節減を心掛けたい。

協議6『結成60周年記念大会・第51回県研修・親睦』

会「盛岡大会」を振り返って(平政光事務局長)  
 第51回県研修・親睦会「盛岡大会」運営の総括並びにアンケート集計結果により報告があった。

協議2『班長活動費と班組織の確認等について』(同)

今年度の班組織について組織一覽で確認。班長は36名。班長の交代班ではしっかりと引き継ぎ適宜適切な支援をお願いしたい。

盛岡地区会の令和7年度末役職定年予定者19名全員の加入と他地区からさらに1名の入会届があり、計20名の新会員となる。

会員の転居や訃報が入ったならば可能な限り早く事務局(平)宛に電話報告をしてほしい。

協議3『令和8年度の会員名簿の作成と会費等の納入について』(同)

名簿作成の留意点や会費集金等の依頼。令和8年度も昨年同様に新入会員についても班長が集金する。会費納入免除者の確認。

◆5年目を迎える「平和を考える絵本プロジェクト」は、取り組み方法を一部見直しながら継続していく。募金はしない。

協議4『令和8年度定期総会・盛岡地区会定期総会・第1回班長会について』(同)

県定期総会は5月12日(火)11時からサンセル盛岡で、盛岡地区会定期総会は5月16日(土)15時から、新会員歓迎親睦会は17時からサンセル盛岡で行う。

第1回班長会は5月21日(木)15時から岩手県公会堂21号室を会場に開催する。

協議5『令和8年度定期総会代議員の選出について』(同)

5月12日に行われる県定期総会への盛岡地区からの代議員8名が選出された。

陳ヶ岡安雄氏(3班)・小岩和彦氏(11-1班)・田中吉兵衛氏(11-2班)・菅野秀一氏(15班)・小笠原洋子氏(22班)・横沢幹雄氏(24班)・谷地敏視氏(30-2班)・山崎伸一氏(34班)

協議6 『令和8年度の事業計画案について』  
(同) 事業計画(案)が承認された。

協議7 『今後の「平和を考える絵本プロジェクト」の推進について』(鳥羽真喜子理事)

4年間継続した活動の結果、市内小中学校等へ、のべ251冊の絵本を贈呈してきた。

5年目を迎え、来年度も事業は継続していくが、経費は一般会計からの支出とする。絵本贈呈は、市内中学校となる。

協議8 『その他』(平事務局長)

○令和8年度上寿・米寿・喜寿該当者について  
令和8年度は米寿該当者8名、喜寿該当者6名である。

○令和7年度末役職(校長) 定年予定者  
予定者19名を名簿で確認。全員の入会届が出されている。

6 閉会のことば 菅原 壽 副会長

### 懇親慰労会

会場 MORIOKA北ホテル「窯」  
17時～19時 参加者24名

班長会の会場から懇親会の会場に移動し、会長の挨拶、菅原副会長の乾杯の後、懇親会がスタートした。

今回はブツフエ形式での懇親会であった。途中班長退任の5名の方々にスピーチをいただき、おいしい料理と飲み物で時間いっぱいまで大いに盛り上がった。



## 班長さんから

### \* 班長として11年



第3班 千葉 史夫

私は退職後、盛岡教育事務所にて3年間、初任者指導教員として2年間勤務しました。その後、常勤から解放され自分の時間を持つことができ、何かお役に立てればと思つて引き受け、あつという間に11年間が経つてしまいました。

第3班の会員は14名。エリアも結構広く、自転車ですら1時間余り、玄関先で元気な姿に接し、その場での会話も楽しみの一つでした。会費の集金は、コロナ禍もあり、銀行振り込みにして頂き、スムーズにこなすことができました。また年4回の文書配達で、地域をよく知ることができ、再発見することも多々ありました。近年、マンションで生活する方が増え、時代の波を感じています。

私が、縁があつて退職校長会に関わりを持つたのは、研修会・懇親会への参加でした。研修会は、先輩の方々の生き方を学ぶ良い機会でした。また、会に参加できることは皆様と交流ができ、自分自身の健康のパロメーターにもなっていました。

現在は、城東中学校勤務の縁で、地域の方々と盛岡天満宮を護持する活動をしています。社務所で「合格お守り」や「絵馬」を購入する受験生との会話も楽しんでいます。また、趣味の旅行や地域の人たちと詩吟、カラオケなど楽しみながら過ごしています。

退職後、「人と人との繋がり」が如何に大事

### \* ありがたき機会



第11班 熊谷 哲也

懇切丁寧な引継ぎを小笠原章先生から受けて一年。13人の先輩宅訪問6回、班長会議2回、結成記念大会関係会議と当日参加に携わりました。四季折々の節目における班長の仕事は自分をふり返る貴重な体験でした。

「完全隠居古希爺、一年会わざれば少しは刮目して見られるやもしれぬ(男子三日会わざれば：格言もじり)」多少の変容を自分の中に感じていきます。

一、岩手と盛岡の資料を毎日少しずつ全ページ四色蛍光ペンを用いてしっかり読みこみました。(全国版は斜め読み。すみません) お世話になった先輩や同僚のお名前に触れて懐かしさ、声を聞きたくなり電話にて往時をしのびました。メールでは無く肉声での会話に優るものはありません。

三、紫苑で開催された60周年記念行事で県内から集った方々、転勤先で指導いただいた先生方と再開出来ました。また事務局の皆様素晴らしい運営に頭が下がりました。

四、資料配付13軒ルートは迷い道ふらふらの序盤中盤から経験を重ねた結果、ついに最短ルートにたどり着きました。しかしながらその実現は最終回のことでした。「やるべき事、行くべき所、語るべき人」の存在があるありがたさと大切さを改めて実感できた一年でした。このような機会をいただいたことに深く感謝しております。

であるかをつくづく実感しています。皆様にご協力頂いたことを本当に感謝しています。

平成7年度 「この指とまれ」事業

### 『岩手の先人の足跡 鞭牛和尚を訪ねる旅』

令和7年10月1日(水) 10時～14時  
参加者 15名

今年の「この指とまれ」の事業は新里・宮古方面への見学を目的に行われた。

#### □テーマ・ねらい

『岩手の先人の足跡』鞭牛和尚を訪ねる旅』のテーマのもと、江戸時代中期に、宮古街道（盛岡城と宮古を結ぶ街道）を開削した牧庵鞭牛の足跡を辿るとともに、ドライブや会食などを通して会員の親睦を深めることをねらいとして実施した。

#### □訪問地

・新里生涯学習センター『玄翁館』に集合し、見学をスタートした。玄翁館は、宮古市茂市にあり、旧茂市中学校に開設されている。

#### ○玄翁館での見学研修

ここでは、新里生涯学習センター所長の菊地俊二氏に解説していただき、展示されている様々な資料等をじっくり見て回った。

・牧庵鞭牛和尚展示ホール

・鳥取春陽（作曲家）展示ホール

・藤田弘基写真ホール

・茂市久美子（童話作家）童話コーナー

資料に直接触れることで学びが深まった。

ちなみに『玄翁館』という愛称は、鞭牛が使用した道路工具のひとつ「玄翁（げんろう）」が由来になっているということである。

#### ○熊の穴（墓目地内）

閉伊川と並行する国道106号の道路沿いに位置する大平熊の穴の道供養碑の見学。

道路の開削にあつてここは最大の難所と言われており、4日間で延べ435人も普請に協力したと言われている。高所にある大きな岩場を削って作った場所に上りその大変さを痛感することとなった。

#### ○鞭牛和尚の像

宮古市新川町うみどり公園内にある鞭牛和尚の像を見学した。

#### ○昼食（宮古の寿司店「魚正」）

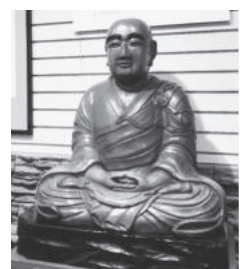
今回の昼食は、宮古市鯉ヶ崎町の寿司店で美味しい海の幸を堪能することができた。

#### ○買い物（シートピアなど）

各自買い物を楽しんだ後、現地解散。



玄翁館にて参加者一同での記念撮影



玄翁館、鞭牛座像



魚正にて昼食

#### 《事業を終えての感想》

予報通り、午後から小雨となりましたが、ほぼ穏やかな天候に恵まれた事業でした。

鞭牛和尚の道路開削への決意と偉業にあらためて感銘を受けました。鞭牛が拓いた命の道路、生涯を道路開削に託した鞭牛の人間像は私たちの胸裏に生き続けることでしょう。

宮古の寿司店「魚正」での昼食は、新鮮な魚介を丁寧に握っていただいたランチでした。どのネタも最高に旨い、幸せなひとときでした。

震災被害から再開した魚正さん、鞭牛の拓いた道路をさらに整備しようという取り組みの宮古市をめぐる旅となりました。

【厚生部 鳥羽真喜子】

稿 寄

# 私の初任の頃

## 黄金の日々



第19班 川上博司

### ◎ 長内中学校着任

昭和35年4月5日、待ちに待った「知らせ」が教育事務所から届いた。久慈市立長内中学校が勤務校だ。早速学校に電話すると、今日始業式・入学式が終わったところなので、すぐ着任してほしいということだった。

翌日、盛岡駅から八戸を経由して久慈駅に降り立ち、バスで10分、学校前に着いた。

校長先生から、1年E組担任、担当は1年の社会12、数学4、男子体育3、それに軟式テニス部顧問ということだった。私にとって中学校社会科の教師になることは、中学生のころからの夢であった。部活顧問も大学時代に軟式テニス部で活動していた私にとっては願ったり叶ったりであった。

### ◎ クラブ見学会

まもなく1年生のクラブ見学会が開かれることになり、昨年のテニス部選手たちは、異常なくらい張り切っていた。それもそのはず当日は、男女百人を超える1年生が、テニ

スコートの周りにひしめいていたのである。私は張り切っている2年生3年生のテニス部員と一緒にテニスゲームを楽しそうにやってみせた。

### ◎ 郡下陸上競技大会

各部の群大会が終わった。女子バレーボール部や女子テニス部が、県大会出場権を得た。陸上は、体育科担当が推薦する生徒を全職員が分担指導して、群大会に出場させることになった。それから1週間、みんな必死に頑張った。大会当日は、全校生徒全職員、必死に応援して、優勝常連校の久慈中を破り、初優勝に輝いた。

久慈の料亭で開かれた祝勝会は、1学期の納会を兼ねて盛大に開かれた。アワビの踊り焼きやいちご煮が出て、初めて食べることになった私たちは大騒ぎだった。

### ◎ チリ津波の襲来

2年目、2C担任となり、2年4クラスの社会科担当となった。社会科専門ということで教材研究や指導資料づくりは非常に熱がこもってきた。ある宿直勤務の朝、5時ごろ電話がかかってきた。

「先生、玉の脇港は今、2メートル以上も波が上下してるよ。怖くて怖くてどうするべ。」

えっ、とびつくりする。とてもいい天気なのに、どうすればいいんだ。浜方面の生徒が登校するためには、「諏訪下」と呼ばれる海岸のそばの堤防のところを通らなければならず危険だ。そこで、そのまま待って漁協職員の意見を聞くことと、危険なことは絶対し

ないように、登校は無理するな、と指示した。その後、私の社会科授業には、たびたび、この舶来津波が登場することになった。

### ◎ 文部省全国学力検査反対闘争

私が着任2年目の昭和36年は、文部省が全国学力検査を行うということで、組合も反対運動を行うとのことだった。

このことについて、学校でもたびたび分会会議や何のためにやるのかという学習会が開かれていた。分会長は教頭先生だった。校長先生にお願いして、職員室で分会会議も学習会も開いていた。

前日には、具体的な一人ひとりの動きが確認された。6時に集合、職員玄関に人垣を築くことなどを確認しあった。

いよいよ当日、問題用紙を持った市の教育委員は、朝5時ごろには開いていた生徒昇降口から校長室に入り込んだ。すっかり出し抜かれた私たちだったが、校長室で教育委員と対峙し、帰るよう説得した。

授業が始まり、私たちは予定通りふだんの授業に入った。途中、2回ほど校長先生が教室にやってきて、「テスト補助員を務めてくださいませんか」というので、「できません」と断ったのを鮮明に覚えている。

### ◎ 終わりに

私が盛岡に転勤した年の軟式テニス県大会で長内中学校女子が堂々の初優勝を飾った。

盛岡に行けば、川上先生がコーチして勝たせてくれると信じて頑張った子どもたちを可愛いと思う反面、あれほど頑張ったのに長内中在任中に成し遂げられなかった自分の弱さを感じたことだった。

令和7年度

### 盛岡地区会活動の成果と課題

会長

吉川 健次



日頃会員の皆様からの心温まる激励・ご支援を得て、事務局一同鋭意業務に取り組んでおりますこと、ご報告と感謝を申し上げます。

令和7年度は、岩手県公立学校退職校長会結成60周年記念大会、第51回県研修・親睦会「盛岡大会」の開催年であり、盛岡地区会が主管し、大成功に終わることができました。実行委員に班長様方に入っていたいただき、県内の会員からは、記念すべき大会に快く参加出来たと感謝の言葉をいただきました。

盛岡地区会には36の班があり、班長（内12人が新班長）は、会費の徴収や班員の慶弔の把握や退職校長会だよりの配付など会員との結び付きの重要な役割を果たしております。感謝申し上げます。

また、4年目を迎えた「平和を考える絵本プロジェクト」の募金により、「せんそうがおわるまで あと2分」を市内の小学校に児童数に応じた複数冊を寄贈することが出来ました。役員の改選期であり、澤村憲照総務部長と川守田毅研修部長が一身上の理由により辞任し、熊谷幸一氏が総務部長に就任し、新しく熊谷雅英氏を厚生部長に佐藤精晋氏を研修部長にお迎えした体制に替わりました。その他、総会、新会員歓迎会、この指とまれ事業（宮古市新里の「鞭牛和尚を訪ねて」

新里生涯学習センター玄翁館見学と宮古市での会食）、年2回の班長会、研修会・慶祝会（講師・高橋昭三氏「人生100年時代、心豊かに生きる」。上寿1名、米寿7名、喜寿11名、叙勲5名）、現職校長との合同研修会、盛岡市教育振興運動実践発表会への参加など充実した取り組みとなりました。

令和5年度から教員の定年延長制度が始まり、教員を続けるかどうかに関わらず、校長は60歳で役職定年となりますので、退職校長会への加入を勧誘しております。

総務部

部長 熊谷 幸一



令和7年度、岩手県公立学校退職校長会が結成60周年を迎えた。盛岡地区会はこの大会の主管地区会として、県本部と一体となり「おもてなしの心」で大会を運営し、先輩各位と現会員の連帯意識や結束力の強さを再認識し、これからの諸事業の推進に大きな自信を得た。

関係諸機関や団体との交流・連携を、今年度も積極的にを行い、情報交換する中から学びを深めることができた。

平和教育の一助になることを願って行っている地区会独自の「絵本プロジェクト」は、多くの会員から協力を得て今年度4年目を迎えた。盛岡市内各小学校に絵本を贈呈することができた。今後は、どのような形でこの事業を継続していくか考えていく必要が出てきている。

機関紙「盛岡会だより」は年4回発行した。事業の情報提供や会員との交流に役立っている。ただ、経費の負担が大きくなっており、

発行回数の見直しを検討課題である。

校長退職者の減少も影響し、年間の予算規模が縮小している。会員がそれぞれの立場から加入促進の呼びかけを行った結果、盛岡地区会としての加入者は増加した。持続可能な地区会の活動の在り方を探りながら、継続と発展を期して諸事業を推進していきたい。

研修部

部長 篠田 宜道



「合同研修・親睦会」7月1日(火)にサンセール盛岡において参加121名（本会会員24名）で開催。

講演は「スクールロイヤーが行う学校のトラブルへの後方支援の実情」と題し、講師の山中法律事務所弁護士の山中俊介氏が、市内の学校のトラブルに関わった体験から、子供に対して毅然とした態度を取らなければならぬ場合がある。全体のルールを守るため、ドンとした態度で職務にあたって欲しいと結ばれた。

「研修・慶祝会」11月15日(土)、サンセール盛岡において参加31名で開催。講演は「人生100年時代こそ豊かに生きる」と題し、愛宕山老人福祉センター所長、高橋昭三氏が仕事を通して出会った高齢になっても元気な方々の生活の様子や健康維持のために継続している運動等を紹介した。

「盛岡会だより」今年も米寿喜寿を迎えられた方々及び趣旨に賛同して入会された新会員から心温まる文章をお寄せ頂いた。また、巻頭言や「おりおり」のコーナーには退職後、社会の様々な場面でご活躍されている皆様に貴重な体験をまとめて頂いた。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

「課題」各種研修会においてコロナ禍以来役員等を除いた希望参加者の少ない傾向が続いている。呼びかけの方法等を工夫して多くの会員が集う研修会となるよう力を尽くしたい。

厚生部

部長 熊谷雅英



厚生部は、総務部や研修部が企画している事業後の懇親親睦会を、予定通り運営進行することが出来ました。

5月の「新会員歓迎会」では、定年後再就職したばかりの7名の新会員から頼もしい決意の挨拶をいただきました。7月の「日本教育会・盛岡地区会との合同研修会・親睦会」では、現職と退職者併せて百名を超える皆さんが情報交換し合うことができました。12月の「慶祝会」では、米寿の方3名、喜寿の方6名、叙勲受章者の方2名が出席され、皆さんで祝意を表すとともに親交を深めることができました。

「この指とまれ」事業は、10月、宮古市新里生涯学習センター等を訪問し、江戸時代に宮古街道を開削した牧庵鞭牛の足跡を辿りました。また、作曲家・鳥取春陽と童話作家・茂市久美子も新里出身であることも知り、予定時間を超えての熱心な学びの機会となりました。

昼食は、宮古港近くの寿司店で、宮古で勤務したことがある会員からの思い出話に花を咲かせながらのランチとなりました。昼食後は、シートピアで海の幸のお土産を沢山購入し帰路に着きました。この研修では15名が4台の車に分乗しての移動で、車内で話に夢中になり過ぎて、道を間違えながらの珍道中と

なりました。

9月には、県公立学校退職校長会結成60周年記念大会・盛岡大会が開催され、地元盛岡地区会員による「さんさ踊り」や「スコップ三味線」に取り組み、記念大会祝賀会を盛り上げるよう努めることができました。

経理部

部長 佐々木 則子



本年度は、新入会員17名を迎え会員数448名でスタートした。会費納入は、438名となり、昨年度より3名の減となった。会費の集金・円滑な納入については、会員のご皆様のご理解、班長及び副班長のご尽力に感謝申し上げます。

会報「盛岡会だより」発行、「この指とまれ」事業、慶祝会、班長会等については、計画通り実施し、班長・副班長はじめ会員各位のご支援により滞りなく予算を執行することができた。特に今年度は岩手県公立学校退職校長会結成60周年記念大会第51回県研修・親睦会「盛岡大会」の主管地区として「おもてなし」の心で取り組み、当初の予定通り事業を実施し、適正な予算執行ができた。

また、盛岡地区会の大きな活動である「平和を考える絵本プロジェクト」の予算は、今年度も募金によることが定期総会で承認され、一般会計からの支出はゼロであった。多くの募金をいただき77冊の絵本を市内小学校に贈呈することができた。ご協力に感謝申し上げます。

諸物価高騰の影響は大きく、今後も事務費や通信費等の支出が増えることが予想されるが、一層の工夫を重ね予算の執行管理に努めていきたい。

事務局

局長 平 政光



今年度盛岡地区会員が448名となり、多くの仲間と共に諸事業を推進できたことは非常に大きな喜びでした。特に、10年に一度の「結成60周年記念大会第51回県研修・

親睦会盛岡大会」では、36名の班長の皆様に実行委員の役割を担っていただき、一般参加も含めて約60名と多くのご参加をいただくとともに、県内各地からご参加の多くの会員から高い評価をいただき、大きな充実感を持って本大会を終了することができました。チーム吉川を力強く支えてくださいました実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

その他の事業も通常通りの開催を目指して参りました。各事業の成果と課題につきましても、会長はじめ各部長がふれておりますので、ここでは省略いたしますが、事務局としての大きな課題は、諸経費高騰による地区財政への大きな打撃です。過去2年間、経費削減策として、様々な対策を実施して参りましたが、今後も会費値上げをせずに難局を乗り切って参りたいと思います。

令和8年度は、HP開設を主軸に時代の流れに対応する退職校長会を目指していきたいと思っておりますので、大所高所からご意見を賜れば幸いです。

最後に、会員のご逝去にあたっては、今年度11名の皆様に弔電・弔辞・弔慰金を奉呈させていただきますとともに訃報記事を掲載することができました。ご逝去された会員の皆様の業績を称え、あらためて心よりご冥福をお祈り申し上げます。

# おしらせ板

祝 令和7年度の  
叙勲 瑞寶双光章

受章、おめでとうございます。  
心からお祝い申し上げます。

### ◎高齢者叙勲

石上 博 氏(事務局直属)

■令和7年度末役職定年退職者  
(校長)の加入率100%に!!

年度末退職予定者は19名です。

1月末に入会届出用紙を配付し  
加入のお誘いをしたところ、全員  
が入会届を提出されました。大変  
喜ばしいことです。

■令和8年度定期総会・新会員歓迎  
親睦会について

【日時】 5月16日(土)15時～

【会場】 サンセール盛岡

### 【内容】

・令和7年度会務報告・収支決算  
報告

・令和8年度活動方針並びに事業  
計画(案)

・令和8年度収支予算(案)

・その他

※ 定期総会終了後に新会員歓迎  
親睦会を17時からサンセール盛  
岡で開催いたします。

■令和8年度第1回班長会  
【日時】 5月21日(木)15時～  
16時30分

【会場】 岩手県公会堂

■令和8年度第52回県研修・親睦  
会「二戸大会」の開催について  
(第一次案内)

【テーマ】 「カシオペアの地から世  
界へ」先人から受け継  
ぐ現在、そして未来」

【期 日】 9月18日(金)

【会 場】 二戸市民文化会館  
中ホール

※ 二戸駅からバス運行予定

【親睦会】 二戸パークホテル  
(任意参加)

※ 電車利用者はバス運行予定

【会 費】 研修会のみ(昼食含み)  
3,000円  
研修会・親睦会

※ 宿泊(朝食付き)希望の方  
二戸パークホテル 8,930円  
二戸シティホテル 8,300円

【日程・内容】

※ 受付 10時～10時55分

(1) 記念講演  
11時～12時30分

《演題》  
「世界を呑む!! 南部美人の挑戦」

・講師 株式会社南部美人

五代目蔵元 久慈浩介氏

※ 昼食 12時30分～13時15分  
開会行事

(2) 13時20分～14時10分  
児童生徒の発表

(3) 14時15分～14時55分  
へのへJrマーチングバンド

・二戸市立福岡中学校特設合唱部  
応援団

(4) 閉会行事  
15時～15時10分

※ 親睦会  
16時～18時

## 編集後記

今冬は雪が多く、昔  
の盛岡に戻ったように  
感じました。

そして、ミラノ・コルティナ冬  
季オリンピック・パラリンピック  
が終わりました。

本県出身者を含め、選手たちの  
活躍に興奮したり涙したりと、久  
しぶりに胸が高鳴る時間を過す  
ことができました。

人たちがストイックに取り組ん  
できた苦労や費やした時間を想像す  
ることにより、何かを成し遂げる  
ためには偶然などあり得ないこと  
を改めて学ぶことができました。

人生であと何回、オリンピックを  
応援できるのだろうかとも思いなが  
ら・・・

さて、今年度の会報は本号が最  
終号となりました。

今号は巻頭言「歴史遺産『志波  
城』で樋下照男氏から紹介され  
た国指定の史跡についてさらに興  
味を抱き、改めて訪れてみたくな  
りました。

「私の初任の頃」を寄稿いただ  
いた川上博司氏のエネルギーにあ  
ふれた若かりし頃を想像し、タイ  
ムトラベルをさせていただきまし  
た。

多忙な中、玉稿を賜りました皆  
様に心より感謝申し上げます。

多忙な中、玉稿を賜りました皆  
様に心より感謝申し上げます。

